

暮らしのおこない展示

山口家住宅では、表から入って小さな土間からカマドをもつ大きな土間に続き、日常生活の場である板間、そしてもてなしにも使われる座敷、茶室と多様な空間への展開が見られます。

江戸時代の文献や昭和初期の山口家の暮らしと社会背景を参考としつつ、堺の町家暮らしの一端を見ていただきます。

山口家住宅の空間とみどころ

庭園



樹齢200年近いといわれる大きなハゼの木。秋には紅葉を楽しむことができます。

北土蔵

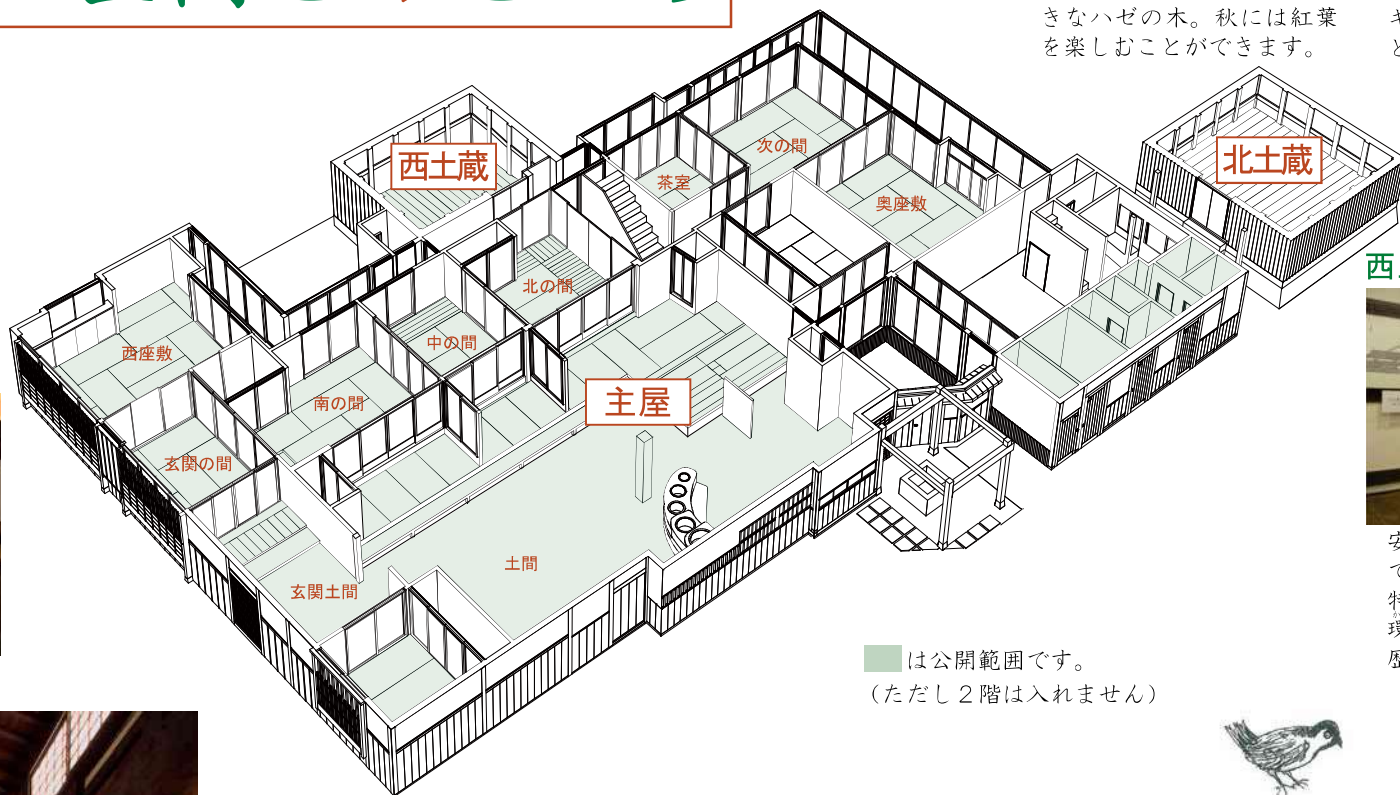


寛政12年に建築された蔵をギャラリー、くつろぎの場として活かしています。

南の間



土間



西土蔵



安永4年に建築された蔵では、山口家住宅の建築の特徴や生活、その背景にある環濠・町割り、町家などの歴史をご案内します。

■ は公開範囲です。
(ただし2階は入れません)



土間



座敷



江戸中期から後期には、座敷が増築され、もてなしの場として使われてきました。

茶室



堺は茶の湯の伝統があり、山口家にも江戸後期に茶室と水屋、待合が設けられました。